

PubMedにおけるCOVID-19撤回論文に関する 検索結果の違い

東京慈恵会医科大学 学術情報センター 図書館
井上 陽路

【背景】

2022年の日本医学図書館協会主催による第6回JMLA学術集会での自身の発表の際、検索漏れについての指摘があり、**実際にどのくらい検索漏れが発生していたのか**になり、本調査を実施した。

【研究目的】

- MeSHのみで検索をした場合とそうでない場合に**どのくらい検索漏れが発生したのか**を調べる。
- MeSHのみで検索をすると検索結果から漏れてしまった論文には、**どのような特徴**があるのかを調査する。

【研究方法】

- PubMedにおいて、表1の検索式を用いて該当する文献を抽出
- 1)の文献から、「著者名」「掲載誌名(OAの有無・MEDLINE収録の有無)」「第一著者」「所属」「論文タイプ」「出版日」を抽出
「撤回通知の出版日」-「撤回論文の出版日」から「撤回日数」を計算
- それぞれについて、①MeSHのみで検索をした場合と③検索漏れの撤回論文で比較

表1 PubMedの検索式

1	retracted publication[Publication Type]
2	covid-19[MeSH Terms]
3	#1 AND #2
4	("2020/01/01"[Date - Publication] : "2023/04/01"[Date - Publication])
5	#3 AND #4→①MeSHのみで検索をした場合
6	retract*[Title]
7	"COVID-19"[Title]
8	#1 OR #6
9	#2 OR #7
10	#8 AND #9
11	#8 AND #9 AND #4→②MeSH+タイトルにキーワードが含まれる場合
12	#11 NOT #5→③検索漏れ

【結果】

表2 各条件の論文数

	①MeSHのみ	②MeSH+タイトル	③検索漏れ
撤回論文	55	102	47
撤回通知	0	92	92
撤回でない論文	0	36	36
その他	0	3	3

半分近い漏れが発生している！

しかし、ノイズも多い

①MeSHのみで検索をした場合と③検索漏れの撤回論文に注目

表3 「①MeSHのみ」と「③検索漏れ」の比較

	①MeSHのみ	③検索漏れ
掲載誌 (そのうちOA誌)	40誌 (17誌: 28論文)	40誌 (17誌: 18論文)
MEDLINE未収録誌・論文数	1誌・1論文 (1.8%)	23誌・29論文 (61.7%)
第一著者の所属 (上位3国)	USA: 11人 China: 9人 India: 6人	USA・China: 7人 India: 6人 Egypt: 4人
論文タイプ (Retracted Publication・Research Support~以外)	Review: 7件 Randomized Controlled Trial: 5件 Comment・Comparative Study・Letter・Multicenter Study: 3件など 計28件 (22論文)	Letter: 4件 Randomized Controlled Trial・Case Reports・Review: 2件など 計14件 (10論文)
撤回日数 (平均)	263日 (OA誌: 271日・非OA誌: 256日)	208日 (OA誌: 134日・非OA誌: 253日)

表4 検索漏れの撤回論文の撤回日数比較

	MEDLINE収録誌	MEDLINE未収録誌
OA	64日 (3論文)	148日 (15論文)
OAでない	192日 (15論文)	319日 (14論文)
	171日 (18論文)	231日 (29論文)

③検索漏れの撤回論文の撤回日数に注目

検索漏れの論文はMEDLINEに収録されていない雑誌が多く、論文タイプの付与が少なかった。
また、MeSHのみで検索をした論文に比べて**撤回までの日数が短く**、特に**OA誌・MEDLINE収録誌で短かった**。

【考察】

OA誌: 人々に行きわたりやすく、人の目に触れる機会が多い→情報の吟味がなされ、撤回までの日数が早くなったと考えられる。

検索漏れ: ★論文タイプの付与が少ない・撤回までの日数が短い→情報の移り変わりが早く、データの作成が追いついていない。
→MeSHで検索した場合に検索結果から漏れたと考えられる。

★MEDLINE未収録誌からの論文が多かった→掲載誌の信頼性を確認しつつも、MeSHに頼り過ぎない検索が必要だと感じた。
掲載誌が信頼できるかの判断を行うことは図書館員に必要なスキルだと思われる。